

1993年(平成5年)釧路沖地震による地盤災害



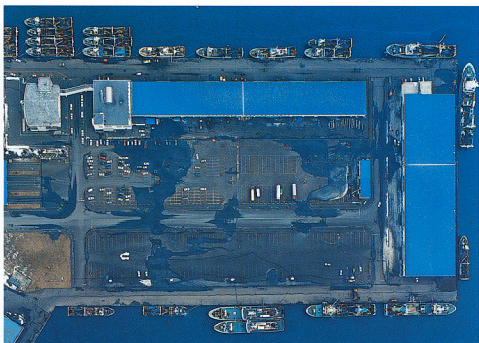
1. 厚岸町糸魚沢東方約3kmの国道44号線の路面陥没、湿原の上に築かれた旧道とその上の新道の盛土が地すべり状に崩壊している。(写真提供：株式会社シン技術コンサル)

1993年1月15日午後8時6分、北海道釧路市南方約15kmの深さ107kmを震源とするマグニチュード7.8の地震が発生した。震度VIが記録された釧路市を中心に北海道では死亡1名・重軽傷727名、総額398億円にのぼる被害が発生した(2月2日現在の北海道庁の集計)。地盤災害は港湾埋立地、沖積低地と斜面の盛土地および鉄道・道路の盛土など人工地盤に集中した。口絵写真と本文速報記事で、地震直後に行った現地調査の結果の概要を紹介する。

(奥村晃史・池田国昭・遠藤秀典)



2. 標茶町茅沼の国道391号線白尾鳥橋前後にみられる道路被害の典型的な例。橋の前後にみられる路面を横断する割れ目を伴って盛土部分の路面が沈下している。手前の路面は沈下するとともに相対的に左に移動している。このような盛土の沈下・変形は程度の差こそあれ至る所で発生している。



3. 釧路港副港漁業埠頭の地震の翌日の状況。埠頭の両側で岸壁に平行する地割れが連続しその内側の地盤が沈下した。駐車場の路面を縦横に切る地割れと暗色の噴砂が地盤の液状化と不同沈下を示している。埠頭の幅は200m。(写真提供：株式会社シン技術コンサル)

4. 漁業埠頭の岸壁の被害状況。地震前は平らだった岸壁の舗装面は地割れを境に内側が沈下した。右側の建物基部の黒い部分は抜け上がった基礎である。



口絵写真撮影地点の位置。地点番号は口絵写真の番号と一致する。



5. JR釧網線茅沼一五十石間の築堤の被害。谷の出口を横断する築堤の天端が開孔して軌道が1m以上陥没した。地震前、軌道と道床は路肩(青いタープ・傾斜標のある部分)の上にあった。軌道の下に砂利を詰めて元の高さまでかさ上げする作業が続けられている。



6. 釧路町桂木の歩道に抜け上がった下水のマンホール。水面貯木場をとりまく地区で液状化が起こりマンホールの抜け上がり(ものさしは1m)・噴砂、地盤の不同沈下がみられた。



7. 音別町直別における家屋被害。沖積低地の微高地(盛土地?)に立地する直別の集落では、低地から連続する地割れとその上での家屋の損傷が目立った。



8. 標茶町茅沼の別荘地の被害。造成地前縁の盛土部分が地すべり状に崩壊した。